

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 7月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0171200124		
法人名	株式会社恵み野介護サービス		
事業所名	グループホーム だんらん		
所在地	恵庭市有明町1丁目8番8号 (電話) 0123-32-6626		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年7月10日	評価確定日	平成20年7月30日

【情報提供票より】 (20年 7月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 14人 非常勤 2人 常勤換算	11.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	12,000(夏期)円
			20,000(冬期)円
敷金	有()円・ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4) 利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	6名	要介護2	4名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 87歳	最低	72歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	恵み野病院	恵庭南病院	澤田歯科医院
---------	-------	-------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地の中にあるグループホームで、建物内に居宅サービス事業所が併設されている。建物は開設時にバリアフリー対応で新築し、事務室を中心に各居室の入り口や共有空間が見渡せる配置になっており、利用者や職員にとって互いに安心して過ごせる設計になっている。管理者は利用者の尊厳を一番大切に考えており職員にも徹底され、利用者への声かけや対応はとても温かく、利用者は自由に楽しく過ごされている。運営法人及び事業所内での研修や諸会議が充実しており、運営法人内事業所間の交流や協力体制も整っている。家族にとって満足度の高いホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 災害時の避難訓練を地域の方々の協力を得て実施している。また、水や缶入りパンなどの非常用の飲食物をはじめ災害対策用の備品も準備している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は、ガイドブックの内容をコピーし、会議やミーティングなどを通して、職員全員で評価の意義を確認しながら話し合いを重ね、ユニット主任がまとめている。昨年度の評価課題にも取り組み、評価を活かせるよう常に話し合いをしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヵ月に1回のペースで運営推進会議を開催し、グループホームの活動報告、市の実施指導報告、外部評価報告、災害対策、行事などをテーマに活発な意見交換をしている。会議の内容は職員にも報告され、サービスの質の向上に活かしている。議事録も作成されている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族来訪時や電話で、意見や要望をいただいている。運営推進会議には、家族の方々にも参加していただき、意見などを運営に反映させている。また、ホーム内には苦情箱を設置し、重要事項説明書に第三者の苦情相談受付窓口を明記して、家族に説明している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、町内会長や回覧板を通して地域活動の情報提供を受け、盆踊りやごみ拾いなどの催し物に参加している。ホーム主催のだんらん祭りには、地域の方々にも参加していただき、交流を図っている。毎日のセラピー犬との散歩で近隣の方々との関係を深めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者が望む生活と自分たちの目指す介護」をスタッフ間で話し合い、ホーム独自の理念を作りあげ、「住みやすい環境のなかで」「今まで歩んできた生活を大切に」を掲げ、地域との関係強化を目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームのスタッフ理念は、カードにして職員が携帯しており、常に意識し実践を目指している。職員採用時や実践のなかで悩んだ時などには、職員全員で確認しあい、掘り下げて話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内会長や回覧板を通して得た地域活動の情報をもとに、盆踊りやごみ拾いなどの催し物に参加している。ホーム主催のだんらん祭りには、地域の方々にも参加いただき交流を図っている。毎日のセラピー犬との散歩で近隣の方々との関係を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今年度の自己評価は、ガイドブックの内容をコピーし、会議やミーティングなどを通して職員全員で、評価の意義を理解しながら話し合いを重ね、ユニット主任がまとめている。昨年度の評価課題にも取り組み、評価を活かせるよう常に話し合いをしている。		

恵庭市 グループホーム だんらん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回のペースで運営推進会議を開催し、グループホームの取り組み状況を説明している。参加メンバーから意見や要望などをいただき、活発な意見交換により、より良いサービスの質の向上につなげている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催のグループホーム連絡調整会議や毎月開催される包括センター会議に参加して、市の担当者と情報交換している。また、困難な事例など相談することがあれば、連絡を取りながら解決に向けて話し合いを行なっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりの写真を掲載したホーム便りを定期的（1回/2ヵ月）に作成し報告している。家族の面会が多く、日常の様子や受診内容をその都度お話し、金銭出納報告時に確認、サインをいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族来訪時には、意見や要望をいただいている。運営推進会議には家族の方々にも参加していただき、意見などを運営に反映させている。ホーム内に「苦情箱」を設置し、重要事項説明書には、第三者の苦情相談受付窓口を明記し家族に説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営法人内での職員の交代はほとんど無いが、離職などでやむを得ない場合は、利用者一人ひとりの状況により、説明や対応の仕方を工夫し、利用者が混乱しないよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修では、講師をお招きし、年1回の運営法人内の研修と2ヵ月おきのユニット合同会議で勉強会を行なっている。外部研修では、道主催のGH協議会の研修や市内のほかのホームと結成したネットワーク協議会の研修を職員の希望や育成段階に応じて参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成19年に、市内の9グループホームでネットワーク協議会を結成し、今年度から研修や勉強会を中心に、ほかの地域の方へも呼びかけを行ない、グループホーム間の交流や連携を図り、サービスの質の向上の取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に1～2回はホーム見学に来ていただき、職員やほかの利用者の方々と一緒にお茶を飲んだりして、雰囲気を感じていただくようにしている。入院中の方には2～3回病院を訪問し、お話を聞いている。入居後落ち着くまでは、側に付き添い、寂しい思いをしないように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者とのコミュニケーションを大切に考えており、一人ひとりのペースに合わせて活発に話しかけている。食事の支度やおやつ作りの工夫を教わったり、散歩や居室の掃除を一緒に行ないながら、生活の知恵を教わり支え合う関係を築いている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族から、どこでどのように暮らしたいか、生活場面で出来ること出来ないこと、また、その生活場面毎にどのようにしてほしいかなどを詳細に記録されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は自分達で作上げたスタッフ理念をもとに、詳細にリサーチしたアセスメントを参照して、職員全体で意見交換し、ケアマネジャーや利用者一人ひとりの担当職員が中心となって介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の全体会議で担当職員やケアマネジャーが中心となって、課題の評価やアセスメントを行ない、3ヵ月毎にケアプランの見直しを図っている。毎朝のミーティングでは、利用者一人ひとりの心身の状態を職員で共有し、微妙な変化に対応した介護が出来るようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1対1の支援として、職員と利用者の2人で利用者の行きたい所やしたいことなど、要望に沿ったサービスを行なっている。通院送迎などの移送サービスも支援している。医療連携体制を活かし利用者の健康管理を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のほとんどがホームの協力医療機関を利用している。入居前のかかりつけ医の受診を希望する利用者には通院を支援している。医療機関との情報共有や連携体制は、ホームの看護師が窓口となり密接に支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化や終末期を向かえた場合、医療処置が必要な段階になると協力医療機関での対応となり、医療処置を行わず自然に終末期を迎える場合は、グループホームで出来る限り支援をしていく。往診体制が整っていないため、看取りは出来ないことを入居時に家族、利用者に説明し同意書をいただいている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、利用者一人ひとりの尊厳をとっても重要と考えており、職員は、利用者のプライドを尊重した声かけや対応を大切にしている。書類や写真などの個人情報の管理は徹底しており、使用時は家族の同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者の思いを察知出来るよう日頃の会話を大切にしており、利用者のペースや希望に沿った支援を行なっている。また、昼夜逆転や入浴拒否など、生活のリズムが乱れやすい状態が続く場合は、職員全員で工夫し対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事やおやつ作りは、利用者の能力や意思に応じて、職員と利用者が分担して楽しみながら行なっている。食事は利用者と職員が同じテーブルで楽しく談笑しながら食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や回数など、利用者の希望に合わせて入浴を支援している。仲の良い利用者同士と一緒に入ったり、今までの習慣から夜間に入浴していただいたりするなど、楽しめるようにしている。入浴を拒む利用者には、声かけや雰囲気作りなどで工夫をしている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作り、セラピー犬との散歩、手作りカレンダーの日めくり、食事の声かけ、食事作り、靴箱掃除、洗濯物干し、お誕生会のケーキ作りなど、自立できる利用者も多く、職員と利用者が一緒に様々な家事を行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物、ドライブ、犬の散歩、ごみ投げ、日光浴、畑など、様々な機会をつくり、利用者の体調や希望により支援し、歩行不安定な利用者には車椅子を使用している。毎月、行事を企画し利用者全員でリフト車で外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は解錠し、夜間のみ防犯のため施錠している。自立している利用者は、職員に声かけし、自由に行動できるよう支援している。見守り介助が必要な利用者には、ユニット出入り口の鈴で察知し、支援している。		

恵庭市 グループホーム だんらん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を、日中・夜間を想定して年2回実施している。運営推進会議で地域の方々に協力を呼びかけ、町内会長、民生委員、近所の方々、市の担当者の協力を得ながら、消防署の指導のもと実施している。水、缶入りパンなどの非常用食料の準備もしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み込む力の低下している利用者には、刻み食にして、水分はゼリー状にしたり、生野菜が苦手な場合はボイルをし、カロリー制限食を用意したりするなど、利用者の状況に合わせて支援している。栄養バランスやカロリー計算された委託業者の献立を参考に、献立作りも時々行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく広く清潔でゆったりとしている。職員の事務室を中心に、各居室の入り口や共用空間が見渡せる配置になっており、利用者や職員にとって、お互いに安心して過ごせるよう配慮されている。生活観や季節感も取り入れ居心地よい共用空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の馴染みのタンスや椅子などの家具が持ち込まれ、また、仏壇や家族からのプレゼントの品が飾られ、安心して過ごせる場所になっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。